

厚生労働科学研究費補助金  
(地球規模保健課題解決のための行政施策に関する研究事業)  
分担研究報告書

Global Health Diplomacy Follow-up Workshop (2021)

研究分担者	磯 博康	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター センター長
	中谷 比呂樹	国立国際医療研究センター グローバルヘルス人材戦略センター センター長
	梅田 珠実	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター 客員研究員
	明石 秀親	国立国際医療研究センター 国際医療協力局 運営企画部長
	坂元 晴香	慶応義塾大学医療政策・管理学教室 特任助教
	勝間 靖	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター 研究科長
	細澤 麻里子	国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター 主任研究員
	研究協力者	齋藤 英子

研究要旨

グローバルヘルスの課題が多様化および複雑化している中、我が国が国際的な議論に戦略的に介入し、日本の立場を効果的に主張するにはこれらを可能とする人材の育成が急務である。本研究では、その実現の一助としてグローバルヘルス外交に特化した能力強化ワークショップを企画・実施し、教育プログラムの開発と人材育成を図るものである。

昨年より繰越した対面型ワークショップでは、国際会議において効果的な介入を行うための交渉術や発言方法に関する実践的スキルを取得することを目的に開催された。本ワークショップのために開発された事例教材は、現実の世界保健機関執行理事会および作業部会の決議案を模して作成されたため、今後世界保健総会等で活用しうる実践的な内容となった。その結果、大半の参加者からワークショップの有用性について好評を博し、今後同様のワークショップを開催することへの期待が多く寄せられた。

## A. 研究目的

グローバルヘルスの課題が多様化および複雑化している中、我が国が国際的な議論に戦略的に介入し、日本の立場を効果的に主張するにはそのようなことを可能とする人材の育成が急務である。本研究では、グローバルヘルスの今日的課題および日本を含む主要国の動向を分析し、我が国が国際的な議論に戦略的に介入し、日本の立場を主張するための介入方法、グローバルヘルス外交教材、効果的な教育プログラムを開発すること、並びに厚生労働省、外務省、JICA、海外のグローバルヘルス政策実務機関、研究機関等と連携することで、より現実的で効果的な介入並びに有用な教材・研修プログラムの開発につなげることを目的としている。とりわけ、新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、ウィズコロナ、ポストコロナに伴う地政学的変化の中で、国際益と国益とを調和をもって国際舞台で主張できる人材の養成が急務であり、その実現の一助としてグローバルヘルス外交に特化した能力強化ワークショップを企画・実施し、教育プログラムの開発と人材育成を図る。

## B. 研究方法

### 1. ワークショップの実施

世界保健総会をはじめとするグローバルヘルスにおける主要国際会議にて、国際保健分野の課題における議論に戦略的に介入し、日本の立場を効果的に主張できる人材を育成するため、グローバルヘルス外交に特化したワークショップを開催する。

繰り越し年度分では、令和2年度のオンライン版グローバルヘルス外交ワークショップに参加した13名ほどの厚生労働省、

外務省、アカデミア、民間企業、非政府団体(NGO)職員等グローバルヘルスに携わる若手から中堅職員とする。

ワークショップは以下6点を目標に、国立国際医療研究センターおよび研究班分担者から講師を招いて、交渉、効果的な介入に関する演習プログラムを構成する。

- (1) 国際会議前の国内調整と会議準備プロセスを理解する。
- (2) 国際会議の標準的なルールを理解する。
- (3) 国際会議で有効な発言をすることができる。
- (4) 国際会議の意思決定に自らの主張を反省させる技法を習得する。
- (5) 国際益と国益を調和させる姿勢を涵養する。
- (6) 国際会議の暗黙知を共有する。

### 2. ワークショップの評価

ワークショップでは、参加者を対象とした終了時評価アンケート調査を実施し、研修カリキュラムの評価に関するフィードバックを得る。アンケートはすべて任意の匿名回答とし、得られた結果を踏まえ、教材・研修プログラムのさらなる改善を図る。

(倫理面への配慮)

本研究における評価は、すべて匿名回答を用いるため、個人の同定は不可能であり、倫理審査の対象外であった。

## C. 研究結果

令和3年10月30日～31日の二日間にわたり、対面形式でワークショップを開催した(プログラム詳細は参考資料「Global

Health Diplomacy Follow-up Workshop (2021): Course Schedule Overview」を参照)。参加者は13名であった。本ワークショップは、2020年度に開催されたオンラインワークショップのフォローアップという位置づけであり、新型コロナウイルス感染症の影響で令和2年度に実現できなかった対面でのロールプレイ演習に特化したものである。

本ワークショップでは、世界保健総会(WHA)や主要関連会合における決議作成プロセスに関する概要説明の後、実践的なスキル習得のために、模擬WHA方式で介入の演習を実施した。具体的には、本ロールプレイ演習のために用意したWHO執行理事会における架空の議題をテーマに、決議案を含む会議文書の読解、対処方針の検討、他国との交渉、会議での発言などを、一連のロールプレイを通じて、各国の意見が対立する中、どのように自国の主張を行うかという実践的な演習を行った。参加者は、数名ずつのチームに分かれ、各国の代表団(日本、米国、ドイツ、インドの4か国)として演習を行い、国際会議において経験豊富な講師陣が対面で効果的な介入方法について指導した。

ワークショップ終了時評価アンケート調査(表1~2, 講師回答を含む)では、大半の参加者から「難しかった」「普通」といった回答が得られ、本ワークショップ演習の手応えを感じていたようであった。また参加度(表3)についても、ほとんどの参加者が「積極的に参加」「ある程度参加」と回答しており、少人数対面制でのロールプレイ演習の有用性が確認された。また本ワークショップから得られた気づきについてのコメントでは、表現の仕方や事前資料の読み

込み、対処方針の重要性といった実務的な内容に加え、背景や国益等各国のスタンスの真の意味での理解、課題についての専門的な理解、産業界との連携、国情の事前精査、他国との関係性を作ることなど、より包括的かつ専門的な気づきが得られたとの回答が多く見られた。改善点(表5)では、ワークショップ中に資料読み込みに充てる時間が限られており、事前資料配布を望む声が多く見られたため、次回以降対応していく予定である。

#### D. 考察

本ワークショップの参加者は、若手から中堅職員のうち、国際保健分野の知識または実務経験のある人かつ2020年度のグローバルヘルス外交ワークショップ参加経験者のみに限定した。今回の質疑応答は日本語で行ったため、参加者の英語レベルのばらつきにかかわらず、活発な意見交換が行われた。

参加者からの終了時評価アンケートにおいても、活発に参加できたという意見が大多数であった。本ワークショップのような対面でのロールプレイ演習は、国際会議での暗黙知を共有するために効果的な方法であり、今後も継続して毎年度実施していくことが望ましい。

#### E. 研究発表

##### 1. 論文発表

該当なし

##### 2. 学会発表

該当なし

#### F. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

該当なし

2. 実用新案登録

該当なし

3. その他

該当なし

参考資料

1. Global Health Diplomacy Follow-up

Workshop (2021): Course Schedule

Overview (ワークショップ概要)

表 1. 参加者属性 (任意回答アンケート)

		Number	Percent
Age range	20-29	3	18.8
	30-39	8	50.0
	40-49	2	12.5
	50-59	0	0.0
	60 and over	3	8.8
Sex	Male	8	50.0
	Female	8	50.0
Experience in Global Health Diplomacy	With experience	7	43.8
	No experience	9	56.3

表 2. 各セッション難易度 (%)

	Number of Respondents*	Very Difficult	Difficult	Medium	Easy	Very Easy
Team deliberation	16	0.0	25.0	11.0	1.0	0.0
Bilateral meeting roleplay	15	6.7	60.0	33.0	0.0	0.0
Mock-up Session (Plenary #1, #2)	15	13.3	33.3	46.7	0.0	0.0
Mock-up Session (Working Group)	15	6.7	66.7	20.0	6.7	0.0

\*Team deliberation のみの参加者 1 名

表3. 各セッション参加度 (%)

	Number of Respondents	Weakly participated	Somewhat participated	Actively participated
Team deliberation	16.0	0.0	43.8	56.3
Bilateral meeting roleplay	15.0	6.7	40.0	53.3
Mock-up Session (Plenary #1, #2)	15.0	6.7	46.7	46.7
Mock-up Session (Working Group)	15.0	6.7	40.0	53.3

\*Team deliberation のみの参加者 1 名

表4. 国際会議で効果的な介入をするために必要なこととは何か、本ワークショップから

得られた気づきについて（自由回答）

No	コメント(自由回答)
1	背景や国益等各国のスタンスの(真の意味での)理解、課題について専門的な理解(砂糖全てが身体に悪いわけではない点)
2	事前の対処法新案の精査(資料の重要性)、事前の各参加国の興味あるポイントに関するポイント、ビデオをみた時に配られていたサマリーと実際の発言との分析(伝わってる部分と伝え方の工夫)
3	表現の仕方を含むケーススタディがあると便利ではないか?
4	実践を見学する機会、実践的なシミュレーションを行う機会、資料精読の方法の e-learning など
5	資料精査の必要性、国内外の関連情報の把握、外交的な言語や表現の習得
6	本国との基本方針の擦り合わせ、関係省庁との連携、産業界との連携
7	資料精査と自国の規制の理解を踏まえて、事前に発言内容をよく準備することが重要だと思った。また、他の国がどういった提案をしてきたときにどこまで妥協できるか決めておく必要があると思った。
8	Importance of the related basic knowledge and background of the resolution. Bilateral meeting is also very informative.
9	資料配付(事務局補足:事前)
10	事前の調査と各国の出方を予想し、それに応じた対応を熟考しておくこと
11	事前準備の重要性、経験や回数を積んで慣れること、他国との関係性を作ること
12	自分たちのポジションに柔軟性を持つこと、他国の interest や国情の事前精査
13	場数からくる経験
14	事前にどこまで妥協できるかを調整しておく、事前に他国の主張を把握しお互いの落としどころを探しておく、いかにみんなが納得できる理由で説得できるか。
15	自国の状況の理解、事前の多国間の調整
16	Working Group における駆け引き(譲れるところと譲れないところの重みづけなど)の重要性

表5. ワークショップ改善点（自由回答）

No	コメント(自由回答)
1	予めチーム配分をお知らせいただき、関連資料を送付して頂ければ事前準備が出来てワークショップもスムーズだったかもしれません。
2	初めての方同士なのでアイスブレイクは大事だが、時間が限られているので、アイスブレイクを参加者が到着した時にファシリテーターが既にアイスブレイクや本日の流れなどをイントロするように warm up していくと良いのではないかと感じた。
3	事前にビデオで学習ができると良い。
4	バイを効果的にするために事前に対象国の情報を得られると良い、また参加者同士が語り合える場があると繋がりができてよい。
5	色々なサポートスタッフからアドバイスをうけることができたより良かった。議論用語やフレーズ集や外交プロトコル一覧が欲しいと思いました。
6	半日を二日ではなく一日に集中すると交渉のタフさも体感できるように思います。NSA との交渉や会合での interventions があると臨場感が増すと思います。Capitols との折衝も経験できると delegation の立場がより具体的に体感できると感じました。
7	検討時間が少なかったので、資料は事前に配布があると準備がしやすかったかもしれません。
8	内容の割に時間が短い、Agenda Item (OP1-17)は事前に配布して欲しかった。
9	コロナ対策なので仕方ないと思いますが、飲食できないのは大変でした。
10	内容はとても勉強になった、限られた時間ではあったがもう少し余裕を持った進行だとありがたい。
11	もっと時間が欲しい。できれば合宿形式で。
12	事前に draft resolution が手元にあるとより準備できてありがたいです。
13	意見が割れたときの発言の仕方(表現やフレーズ例)があると、実際のロールプレイで実践できそうです。
14	マイクは各国1本ずつあっても良いと思いました。



## 參考資料

## Global Health Diplomacy Follow-up Workshop (2021): Course Schedule Overview

Day 1, Saturday, 30 October 2021		
Time	Session Title	Speakers
12:30	Sign-in	
13:00-13:30	<b>Course objectives/Orientation/Ice-break</b>	Moderator: Dr. Umeda
13:30-15:40	<b>Team deliberation (13:30-14:30)</b> <b>Bilateral meeting role play 15min*3</b> (14:30-15:15)  <b>Team deliberation (15:15-15:40)</b>	Facilitators and Resource Persons
15:40-16:00	Break	
16:00-16:40	<b>Mock-up Session (Plenary #1)</b>	Chair: Prof. Nakatani Director-General: Prof. Miyagishima
16:40-17:00	<b>Team deliberation</b>	
Day 2, Sunday, 31 October 2021		
Time	Session Title	Speakers
12:30	Sign-in	
13:00-13:20	<b>Team deliberation</b>	Facilitators & Resource Persons
13:20-15:20	<b>Mock-up Session (Working Group)</b>	Chair: Prof. Sakamoto
15:20-15:45	<b>Break</b>	
15:45-16:30	<b>Mock-up Session (Plenary #2)</b>	Chair: Prof. Nakatani Director-General: Prof. Miyagishima
16:30-17:00	<b>Wrap up</b>	Prof. Iso

## 別添：List of Resource Persons

- Prof. Hiroyasu Iso, Director, Institute for Global Health Policy Research (iGHP), National Center for Global Health and Medicine (NCGM)
- Prof. Hiroki Nakatani, Director, Human Resource Strategy Center for Global Health (HRC-GH), NCGM
- Prof. Kazuaki Miyagishima, Visiting Professor, Institute of Tropical Medicine, Nagasaki University
- Dr. Tamami Umeda, Visiting Researcher, Institute for Global Health Policy Research (iGHP), NCGM
- Dr. Haruka Sakamoto, Project Assistant Professor, Department of Health Policy and Management, School of Medicine, Keio University
- Dr. Kenichi Komada, Assistant Director, Bureau of International Health Cooperation, NCGM
- Dr. Mariko Hosozawa, Senior Researcher, Department of Global Health Metrics and Evaluation, iGHP, NCGM
- Dr. Eiko Saito, Visiting Researcher, Institute for Global Health Policy Research (iGHP), NCGM
- iGHP/NCGM Secretariat